

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月18日更新

事務事業名	原水(取水)及び配水施設維持管理事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連		
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり			所属部	水道局	課長名	可徳 精至
	施策	9	住環境の充実			所属課	上下水道課	担当者名	田中 良知
	基本事業	24	水の安定供給			所属班	管理工務班	(内線)	1157
予算科目	会計企業	款	項	目	事業連番	法令根拠	地方公営企業法、水道法、合志市水道事業給水条例	成果優先度評価結果	①
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 26年度で終了 <input type="checkbox"/> 26年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	水道事業及び簡易水道事業の基幹施設である配水池施設(13箇所)及び水源地施設(25箇所)を適切に運転し維持管理することにより、水道水を安定的に供給する事業である。昭和37年度から、近代水道を計画的に整備し清浄にして豊富かつ低廉な水の供給を図り、公衆衛生の向上と生活環境を改善するために事業を開始した。H25年度の水道水を供給するための地下水の取水量は、6,518千㎡、使用者へ配水する配水量は、6,448千㎡、水道料金として算定した有収水量は、5,501千㎡である。配水池施設及び水源地施設とも、永年の使用により老朽化が著しく、機器の故障や配線・計器類の劣化による不具合などが顕著に表れている。
(開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	①配水池施設及び水源地施設の職員による維持運転(動力費等支払)、及び定期的な点検、管理を行なう(職員直営+外部委託)。②配水池及び水源地施設の故障及び不具合に対し、早急かつ適切な補修、修繕を行なう(契約、監督、検査等の事務)。③法令に基づき、配水の水質及び取水の原水水質について、外部専門機関に委託し定期的に水質検査及び指標菌検査を実施する(契約事務、監督、成果納品検査事務)。また、各配水池ごとの塩素濃度等の毎日検査を行なう(検査員に依頼)。④水道事業に携わる職員の検査を実施する。⑤水道法の規定に基づく衛生上必要な措置のため、年間を通じて安定的に塩素剤を調達し、水源地施設において原水と混合し基準に適合した塩素殺菌効果を発揮させるための施設管理を行なう(委託契約、監視、保守)。
【主な予算費目】	営業費用 原水及び浄水費(委託料、手数料、修繕費、動力費、薬品費)
【意見や要望】	水道利用者の水質に関する意識が高まっており、個別の水質調査依頼の要望が数件あっている。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO)	27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
配水池施設(14箇所)及び原水(取水)施設(24箇所)の機能を保持し適切に運転できるよう維持管理を行なった(電気設備、機械設備ほか、各種補修対応等)。特に専門的な保守及び点検が必要な設備(電気計装、取水ポンプ、非常用発電機等)について、3~4箇所の配水池施設等を選定し年間を通じて保守点検業務を依頼し実施した。その他「業務の流れ」のとおり	前年度実績のとおり 特に専門的な保守及び点検が必要な設備(電気計装、取水ポンプ、非常用発電機等)について、施設等を選定し年間を通じて保守点検業務を実施する。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア:配水池及び原水(取水)施設の点検回数	→ イ:施設電気料金の増。
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
配水池及び原水(取水)施設	→ ア:配水池施設数 (箇所)
	→ イ:原水(取水)施設数 (箇所)
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
・機能が保持される。 ・安定した運転ができる。	→ ア:設備の事故等により断水した件数 (件)
	→ イ:
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠	
設備の事故等により断水した件数の発生をみることで、配水池及び原水(取水)施設の機能が保たれ安定した運転ができていくかどうかを判断できると考えた。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

各指標・総事業費の推移		単位	24年度実績(決算)	25年度実績(決算)	26年度目標(当初予算)	26年度実績(決算)	27年度目標(当初予算)	28年度予定	29年度見込	30年度見込
① 活動指標	ア	回	18	18	12	18	12	12	12	12
	イ									
② 対象指標	ア	箇所	13	13	14	14	13	13	13	14
	イ	箇所	23	23	24	24	23	23	23	24
③ 成果指標	ア	件	2	2	3	2	3	3	3	3
	イ									
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	88,644	107,332	112,346		127,476	127,476	127,476
		繰入金	千円							
	一般財源	千円								
	(A) 事業費計	千円	88,644	107,332	112,346	0	127,476	127,476	127,476	0
(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
人件費	正規職員従事人数	人	7	5	7	4	7	7	7	0
	延べ業務時間	時間	1,480	1,410	1,200	1,330	1,200	1,200	1,200	0
(B) 人件費計	千円	6,025	5,617	4,780	5,298	4,780	4,780	4,780	0	
トータルコスト(A)+(B)	千円	94,669	112,949	117,126	5,298	132,256	132,256	132,256	0	

事務事業名	原水(取水)及び配水施設維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	--------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は26年度の後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は?	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 目標値である13箇所の配水池及び25箇所の水源地施設に対し、事故等による断水を年に3件以内に留めるよう設定した。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 老朽化による設備の劣化は進んでいるが、専門機関への保守点検業務委託による事前監視を強化することで、目標達成の見込みはある。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか?成果が頭打ちになってないか?	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 事故等による断水がおきないように、現状を保持する事業であり、成果向上の余地は少ない。	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の事業費で維持管理を行っており、削減の余地はない。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずに正職員以外の職員や委託できないか? (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 現時点においても、施設を維持管理するための担当は兼務で業務に当たっており、必要最小限であるため、削減の余地はない。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 すべての水道使用者に受益機会があり公平・公正である。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 第三者に業務を委託することを検討する余地はあるが、使用者にとって真に信頼できる水道事業であり続ける必要があり、部分的な業務委託を含め、現時点で移行することはできない。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

自然災害時の対応の体制の整備及び予防対策に力を入れ安定的な水の供給に取り組む。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																				
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下		
				コスト																	
		削減	維持	増加																	
成果	向上																				
	維持																				
	低下																				
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																					